

※ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いているというのですが、誰もそんな、悪心をもってはおられません。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様を。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

「驚いた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございません。人を信ずることができぬというのです。」

このごろは、臣下の心をもお疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば、十字架にかけられて殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」

メロスは単純な男であった。買い物を負ったままで、のそのそ王城に入っていた。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであったか。言え！」暴君ディオオニス王は静かに、けれども威厳をもって問い詰めた。その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは、悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」

20

15

10

5

こい。遅れたら、その身代わりを、きっと殺すぞ。ちょっと遅れて来るがい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。命が大事だったら、遅れて来い。おまえの心は、わかっているぞ。」メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった。

(太宰治「走れメロス」より)



① 線①「国王」を他に何という呼び名で表現しているか。

これより後の文章中から漢字二字で書き抜きなさい。



② 線②「メロスは激怒した」とあるが、どんなことに激怒したのか。文章中の言葉を用いて書きなさい。



③ 線③「その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった」とあるが、これは王のどんな気持ちを表しているか。文章中から漢字二字で書き抜きなさい。

④ 線④「王は、憫笑した」、線⑤「メロスが嘲笑した」とあるが、

王とメロスが笑った理由として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 相手の言葉が、実際の行動と矛盾しているから。

イ 相手が、到底実現できそうにないことを言ったから。

ウ 相手の人柄を誤解していたことに気づいたから。

エ 相手が、自分の地位にこだわるのがおかしいから。

「疑うのが正当の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王は利口だ。うぬばれてるがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。逃がした小鳥が帰ってくると言うのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そつとほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰つてこないに決まつている。このうそつきにだまされたりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰つて

(5) []に当てはまる言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア はばかりて イ 怪しんで
ウ 戸惑つて エ いきり立つて

(6) 線⑥「人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ」について、

① 王は「ほらわたの奥底」には何があると言っているか。文章中から二字で書き抜きなさい。

② ①に対し、メロスは人の心についてどのように思っているか。次の文の[]に当てはまる言葉を文章中から八字で書き抜きなさい。

人の心を疑うのは、

である。

(7) 線⑦「そつとほくそ笑んだ」とあるが、このときの王の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 王に逆らつたメロスの友人を衆人の前で磔刑にすれば、王に反発を感じている者たちへのいい見せしめになるとわくわくしている。

イ 友人を身代わりに差し出し、自分は罪を免れようとするメロスに対し、あまりに自分勝手に残酷だと憤りを感じている。

ウ メロスの裏切りを期待し、人は信じられないものだということを人々に思い知らせてやることのできる好機だと、皮肉な喜びを感じている。

エ メロスの願いを聞くことで、寛大で信頼のできる王だという評判を得ることができると違いなと期待している。

(8) 線⑧「願いを聞いた」とあるが、どのような願いか。次の文の[]に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

として友人を置いていく代わりに、

の日

限を与えてほしいというメロスの願い。

走れメロス②

教科書 196～213 ページ

※ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一気に峠を駆け降りたが、さすがに疲労し、折から午後の灼熱の太陽がまともにかつと照ってきて、メロスは幾度となくめまいを感じ、これではならぬと気を取り直しては、よろよろ二、三步歩いて、ついに、がくりとひざを折った。立ち上がることができぬのだ。天を仰いで、悔し泣きに泣きだした。ああ、あ、濁流を泳ぎ切り、山賊を三人も打ち倒し、韋駄天、ここまで突破してきたメロスよ。真の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れ切って動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王の思うつぼだと自分を叱ってみるのだが、全身萎えて、もはや芋虫ほどにも前進かなわぬ。路傍の草原にごろりと寝転がった。身体疲労すれば、精神も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふてくされた根性が、心の隅に巣くった。私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかった。神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、できることなら私の胸を断ち割って、真紅の心臓をお目にかきたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きつと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。途中で倒れるのは、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を欺かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのだ。一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だって、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれ

20

15

10

5

(2) 線①「愛する友」とあるが、誰のことか。名前を文章中から書き抜きなさい。

(3) 線②「これほど努力したのだ」とあるが、どんな努力をしたか。文章中の言葉を用いて二つ書きなさい。

(4) 線③「真紅の心臓」とは、何を表しているか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 困難に立ち向かう勇敢さ。 イ 情けない自分を責める心。
ウ 信実を重んじる気持ち。 エ これまで積み重ねた努力。

(5) 線④「それを思えば、たまらない」とあるが、メロスが「たまらない」と思うのはなぜか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

この世でいちばんほこるべき宝は

であるのに、

自分を

くれている友人を

ような行為を自分

がしようとしているから。

(6) 線⑤「王の言うまま」とあるが、具体的には誰が、どうすることか。考えて書きなさい。

た。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実^④は、この世でいちばんほこるべき宝なのだからな。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！ 私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。ああ、このうえ、私に望みたもうな。放っておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしない。笑ってくれ。

25

王は私に、ちよつと遅れて来い、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣^{ひれつ}を憎んだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになっている。私は遅れていくだろう。王は、独り合点^{がてん}して私を笑い、そうしてこともなく私を放免^{はつめん}するだろう。そうになったら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も不名誉^{ふめいよ}の人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがりか？

30

ああ、もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはしないだろう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法^{じやうぽう}ではなかったか。ああ、何もかもばかばかしい。私は醜^{みにく}い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢^{しし}を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

35

(1) 線①～④「ああ」とあるが、それぞれどのような気持ちで言っているか。最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

40

①「ああ」 ②「ああ」 ③「ああ」 ④「ああ」

ア 自分の中にある信実を証明したい気持ち。

イ 自暴自棄^{じぼうじき}になり、全てを投げ出そうとする気持ち。

ウ 道の半ばで倒れた自分を哀れに思う気持ち。

エ これまでの信念を捨て、悪の道へ走ろうと考える気持ち。

オ 自分にふりかかったいわれのない不幸を嘆く気持ち。

(7) 線⑥「死ぬよりつらい」とあるが、どんなことが「死ぬよりつらい」というのか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ここからさらに走り続けなければいけないこと。

イ 信頼^{しんらい}していた王に裏切られてしまうこと。

ウ 親しい友人からあらぬ疑いをかけられること。

エ 周囲から卑劣な人間だと思われること。

(8) 線⑦「地上で最も不名誉の人種」と同じような意味で使われている言葉を、これより後の文章中から四字以内で二つ書き抜きなさい。

(9) 線⑧「独りよがり」とあるが、どういうことか、書きなさい。

(10) 線⑨「人間世界の定法」とあるが、これはどんなことか。「……こと。」に続くように文章中から十一字で書き抜きなさい。

(11) この場面では、メロスのどのような姿が描かれているか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア メロスが、勇者らしい強い気持ちで困難を乗り越える姿。

イ メロスが、疲労に負け、本来の誠実な心を失っていく姿。

ウ メロスが、弱くて利己的な、人間本来のあり方に気づく姿。

エ メロスが、義務を遂行^{すいこう}するべきかどうか、悩む姿。

※ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつと頭をもたげ、息をのんで耳を澄ました。すぐ足元で、水が流れているらしい。よろよろ起き上がって、見ると、岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささやきながら清水が湧き出ているのである。その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかがめた。水を両手ですくって、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、僅かながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名誉を守る希望である。斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日没までには、まだ間がある。私を待っている人があるのだ。少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。私は信じられている。私の命なぞは問題ではない。死んでおわびなどと、気のいいことは言っておられぬ。私は信頼に報いなければならぬ。今はただその一事だ。走れ！メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。ありがたい！私は正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。ずんずん沈む。待ってくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてください。

道行く人を押しのけ、跳ね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。野原で酒宴の、その宴席の真ただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴飛ばし、小川を飛び越え、少しずつ沈んでゆく太陽の、十倍も速く走った。一団の旅人とさつと擦れ違った瞬間、不吉な会話を小耳に挟んだ。「今

に引きずられて走った。日はゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。

(太宰治「走れメロス」より)

① 線①「僅かながら希望が生まれた」とあるが、「希望」とはどんな希望か。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友との約束を守り、信実を貫き通せる希望。
イ 友の命が助かり、自分の名声を高められる希望。
ウ 王の信頼に報い、自分の命が助かる希望。
エ 王の言うままになって、王を喜ばせる希望。

② 線②「斜陽は……輝いている」とあるが、この情景は何を暗示しているか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア メロスの祈るような気持ち。 イ メロスのたくましい肉体。
ウ メロスが希望を抱いたこと。 エ メロスの疲れが癒えたこと。

③ 線③「待っている人」について、

① 「待っている人」はメロスをどのような人物だと思っているか。文章中の言葉を用いて書きなさい。

② 「待っている人」はいつまで待っていると考えられるか。それがわかる言葉を、文章中から二字で書き抜きなさい。

④ 線④「死んでおわびなどと、気のいいことは言っておられぬ」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

頃は、あの男も、はりつけにかかっているよ。」ああ、その男、その男のために私は、今こんなに走っているのだ。その男を死なせてはならない。急げ、

25

メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。風体なんかはどうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸体であった。呼吸もできず、二度、三度、口から血が噴き出た。見える。はるか向こうに小さく、シラクスの町の塔楼が見える。塔楼は、夕日を受けてきらきら光っている。

「ああ、メロス様。」うめくような声が、風とともに聞こえた。

30

「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。

「フィロストラトスでございます。あなたのお友達セリヌンティウス様の弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、だめでございます。むだでございます。走るのはやめてください。もう、あの方をお助けになることはできません。」

35

「いや、まだ日は沈まぬ。」

「ちょうど今、あの方が死刑になるところです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早かったなら！」

「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るより他はない。

40

「やめてください。走るのはやめてください。今はご自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様がさんざんあの方をからかっても、メロスは来ますとだけ答え、強い信念をもち続けている様子でございました。」

45

「それだから、走るのだ。信じられてから走るのだ。間に合う、間に合わない問題は問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂ったか。それでは、うんと走るがいい。ひよっとしたら、間に合わないものでもない。走るがいい。」

50

言うにや及ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。メロスの頭は空っぽだ。何一つ考えていない。ただ、訳のわからぬ大きな力

ア セリヌンティウスとの仲が悪くなるから。

イ 死んでしまったらわびができないから。

ウ 気のいい死に方はできなくなるから。

エ 死んでも信頼に報いることはできないから。

- (5) 線⑤「正直な男のままにして死なせてください」とあるが、ここからメロスのどのような気持ちがわかるか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

日没に

到着し、

裏切り者として生き延びるよりも、

として、自分の

を守って死にたい。

- (6) 線⑥「王様がさんざんあの方をからかっても」について、

① 王は、セリヌンティウスにどんな言葉をかけたと考えられるか。考えて書きなさい。

- ② ①の言葉を聞いたセリヌンティウスの様子として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不安な様子。

イ 絶望する様子。

ウ あきらめない様子。

エ 哀れむ様子。

- (7) 線⑦「もっと恐ろしく大きいもの」とあるが、これと同じ内容を表す言葉を、文章中から十字で書き抜きなさい。

- (8) メロスが日没前に刑場に勢いよく走り込んだことが表現されている一文を文章中から探し、初めの五字を書き抜きなさい。

※ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ちょうど今、あの方が死刑^{しけい}になるところです。ああ、あなたは遅^{おそ}かった。お恨^{うら}み申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早かったなら！」

「いや、まだ日は沈^{しず}まぬ。」メロスは胸の張り裂^さける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るより他はない。

「やめてください。走るのはいやめてください。今はご自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様がさんざんあの方をからかっても、メロスは来ますとだけ答え、強い信念をもち続けている様子でございました。」

②「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わないは問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂^{くる}ったか。それでは、うんと走るがいい。ひよっとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及^{およ}ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。③メロスの頭は空っぽだ。何一つ考えていない。ただ、訳のわからぬ大きな力に引きずられて走った。日はゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」と、大声で刑場の群衆に向かって叫^{さけ}んだつもりであったが、喉^{のど}が潰^{つぶ}れてしゃがれた声がかすかに出たばかり、群衆は、一人として彼の到着^{とうちく}に気がつかない。既に、はりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは徐々^{じょじょ}につり上げられてゆく。メロスはそれを目撃^{もくげき}して最後の勇、先刻、濁流^{だくりゅう}を泳いだように群衆をかき分けかき分け、

① 線①「あの方」とあるが、フィロストラトスが語った刑場での「あの方」の様子が描かれた部分を、文章中から十二字で探し、「……様子。」に続くように書き抜きなさい。

様子。

② 線②「それだから、走るのだ。……間に合う、間に合わぬは問題でないのだ」とあるが、メロスは何のために走っているのか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身代わりになっている友人を死なせないため。

イ 自分たちをからかう王のゆがんだ心を直すため。

ウ 自分の信じることをまっとうするため。

エ 自分の命を惜しむ気持ちなどないところを示すため。

③ 線③「メロスは走った」とあるが、メロスが自分の意志と関係なく走っているように表現されている部分を文章中から二十字で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

④ 線④「あっぱれ。許せ」とあるが、群衆は何を望んだのか。簡潔に書きなさい。

⑤ 線⑤「途中で一度、悪い夢を見た」について、①「悪い夢を見た」とはどういうことか。「セリヌンティウス」が助ける」という言葉を用いて書きなさい。

「私だ、刑吏^{けいり}！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質^{ひとじち}にした私は、ここにいる！」と、かすれた声で精いっぱい叫びながら、ついにはりつけ台に上り、つり上げられてゆく友の両足にかじりついた。群衆はどよめいた。^④ あつぱれ。許せ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。「私を殴れ。力いっぱい頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴つてくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、全てを察した様子でうなずき、刑場いっぱいには鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほえみ、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて初めて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひとと抱き合い、それからうれし泣き^⑥においおい声を放って泣いた。

⑦ 群衆の中からも、きふき 戯笑ぎせうの聲が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまをまじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔を赤らめて、こう言った。

「おまえらの望みはなかったぞ。おまえらは、わしの心に勝つたのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

どつと群衆の間に、歓声かんせいが起こつた。

「万歳、王様万歳。」

一人の少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスは、まごついた。よき友は、気をきかせて教えてやった。

「メロス、君は、真^まつ裸^{はだか}じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘^{むすめ}さんは、メロスの裸^{はだか}体を皆^{みな}に見^みられるのが、たまらなく悔^{くや}しいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。

（太宰治「走れメロス」より）

② これと同じような体験をセリヌンティウスがしたとわかる表現を、文中から十六字で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

(6) 線⑥「おいおい声を放って泣いた」とあるが、二人が泣いたのはな

ア これで二人の命が助かったと安心したから。

イ 二人の友情と信頼を確かめ合うことができてうれしかったから。

ウ 約束のとおりに、メロスは死刑になってしまうから。

工 一度裏切った事実はどう取り返しがつかないから。

(7) — 線⑦「群衆の中からも、獻獻の音が聞こえた」とあるが、ここに表れ

た群衆の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア メロスとセリヌンティウスの友情に感動している。

「 」

イ戻ってきたメロスが死刑になることに同情している。

ウ
メロスが戻らず死刑になるセリヌンティウスを憐れあわんでいる。

エ
メロスがセリヌンティウスを助けに来たことに驚いている。

(8) — 線⑧「顔を赤らめて」とあるが、王の様子からどのような気持ちか

読み取れるか。次の文の□に当てはまる言葉を簡潔に書きなさい。

今までの自分を

気持ち。

メロスとセリヌンティウスのやりとりを見て、王が気づいたことはどんなことか。文章から一文で探し、初めの五字を書き抜きなさい。（句読点も字数に含める。）

(10) — 線⑨「おまえらの仲間の一人にしてほしい」とあるが、「仲間」とはどのような仲間か。「信実」という言葉を用いて書きなさい。

定期テスト予想問題

1

走れメロス

／100点

※ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「王様は、人を殺します。」

〔A〕

「悪心を抱いているというのですが、誰もそんな、悪心をもってはおりませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様を。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

〔B〕

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を信ずることができぬというのです。このごろは、臣下の心をもお疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば、十字架にかけられて殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。〔C〕

メロスは単純な男であった。買い物を負ったままで、のそのそ王城に入っていた。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであったか。言え！」暴君ディオオニス^①は静かに、けれども威厳をもって問い詰めた。その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった。

〔D〕とメロスは、悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、嘲笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

20

15

10



顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。遅れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちよつと遅れて来るがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。命が大事だったら、遅れて来い。おまえの心は、わかっているぞ。」メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった。

(太宰治「走れメロス」より)

(1) 〔A〕～〔D〕に当てはまる会話文として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。(完答10点)

ア 驚いた。国王は乱心か。

イ なぜ殺すのだ。

ウ あきれた王だ。生かしておけぬ。

エ 町を暴君の手から救うのだ。

(2) 線①「王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった」とあるが、ここから読み取れる王の心情として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア メロスを強く憎んでいる。

イ 市民からの反発に耐えしのんでいる。

ウ 王であることに誇りをもっている。

エ 孤独であることに、悩み苦しんでいる。

(3) 線②「メロスが嘲笑した」とあるが、その理由を四十字以内で書きなさい。(20点)

「おまえのか？」王は、嘲笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥すべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが正当の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになってから、泣いてわびたって聞かぬぞ。」

「ああ、王は利口だ。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。逃がした小鳥が帰ってくると言うのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そっとほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰つてこないに決まっている。このうそつきにだまされたりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲し



(4) — 線③「清らかなこと」とあるが、その内容が具体的に書かれている部分を文章から一文で書き抜きなさい。(10点)

(5) — 線④「うぬぼれているがよい」とあるが、王のどんな言動に対してこのように言っているか。十字以内で書きなさい。(20点)

(6) — 線⑤「逃がした小鳥」とあるが、誰のことか。文章から書き抜きなさい。(10点)

(7) — 線⑥「残虐な気持ち」とあるが、王はどう思ったのか。次の()に当てはまる言葉を、文章中の言葉を用いて簡潔に書きなさい。(20点)

どうせ帰つて来ないのだから、()。

(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
						A
						B
						C
						D

定期テスト予想問題

2

走れメロス

／100点

※ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

濁流（だくりゅう）を泳ぎ切り、山賊（さんぞく）を三人も打ち倒（たお）し、韋駄天（いだてん）、ここまで突破（とくぱ）してきたメロスよ。真の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れ切（つか）って動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王の思（おも）うつばだぞと自分を叱（しか）つてみるのだが、全身萎（な）えて、もはや芋虫（いもむし）ほどにも前進（ぜんしん）かなわぬ。路傍（ろぼう）の草原（くさ）にごろりと寝転（ねころ）がった。身体疲（ひろう）勞すれば、精神（しんじん）も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合（ふにが）いなふてくされた根性（こんじやう）が、心の隅（すみ）に巣（す）くつた。私は、これほど努力（どりょく）したのだ。約束（やくそく）を破（やぶ）る心は、みじんもなかった。神

も照覧（てうらん）、私は精（せい）いっぱい（に）努（努）めてきたのだ。動けなくなるまで走（は）ってきたのだ。私は不信（ふしん）の徒（た）ではない。ああ、できることなら私の胸（むね）を断（た）ち割（わ）って、真（ま）

紅（く）の心臓（しんざう）をお目（め）にかけたい。愛（あい）と信実（しんじつ）の血液（けつえき）だけで動（うご）いているこの心臓（しんざう）を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精（せい）も根（ね）も尽（つ）きたのだ。私は、よくよく不幸（ふこう）な男（おとこ）だ。私は、きつと笑（わら）われる。私の一家（いけ）も笑（わら）われる。私は友（とも）を欺（あざ）めた。中途（ちゅうと）で倒（たお）れるのは、初（は）めから何（なん）もしないのと同じことだ。あ

あ、もう、どうでもいい。これ（これ）が、私の定（じやう）まった運命（うんめい）なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許（ゆる）してくれ。君（きみ）は、いつでも私（わたし）を信（しん）じた。私も君（きみ）を欺（あ）か

なかった。私たちは、本当（ほんとう）によい友（とも）と友（とも）であつたのだ。一度（いちど）だつて、暗（く）い疑（ぎ）惑（わく）の雲（う）を、お互（たが）い胸（むね）に宿（たが）したことはなかった。今（いま）だつて、君（きみ）は私（わたし）を無（む）心に待（まち）っているだろう。ああ、待（まち）っているだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私（わたし）を信（しん）じてくれた。それ（それ）を思（おも）えば、たまらない。友（とも）と友（とも）の間の信（しん）実（じつ）は、この世（よ）でいちばんほこるべき宝（たから）なのだから。セリヌンティウス、私は走（は）つたのだ。君（きみ）を欺（あ）くつもりは、みじんもなかった。信（しん）じてくれ！ 私（わたし）は急（いそ）ぎに急（いそ）いでここまで来（き）たのだ。濁流（だくりゅう）を突破（とくぱ）した。山賊（さんぞく）の囲（か）みからも、するりと抜（ぬ）けて一（いっ）気に峠（とうげ）を駆（か）け降（くだ）りてきたのだ。私（わたし）だからできたのだよ。ああ、このう

とあんな悪い夢（ゆめ）を見るものだ。メロス、おまえの恥（はじ）ではない。やはり、おまえは真（ま）の勇者（ゆうざ）だ。再び立（た）って走（は）れるようになったではないか。ありがたい！ 私は正義（せいぎ）の士（し）として死（し）ぬことができるぞ。ああ、日（ひ）が沈（しず）む。ずんずん沈（しず）む。待（まち）ってくれ、ゼウスよ。私は生（な）まれたときから正直（しやうじき）な男（おとこ）であつた。正直（しやうじき）な男（おとこ）のままに死（し）なせてください。

道（みち）行く人（ひと）を押（お）しのけ、跳（は）ね飛（と）ばし、メロスは黒（くろ）い風（ふう）のように走（は）つた。野原（の）で酒宴（しゆゑん）、その宴（えん）席（せき）の真（ま）つただ中（な）を駆（か）け抜（ぬ）け、酒宴（しゆゑん）の人（ひと）たちを仰（あ）天（てん）させ、犬（いぬ）を蹴（け）飛ばし、小川（せうが）を飛（と）び越（こ）え、少しづつ沈（しず）んでゆく太陽（たいやう）の、十倍（じゅうばい）も速（すみ）く走（は）つた。一（いっ）団（だん）の旅（りょ）人とさつと擦（す）れ違（ちが）つた瞬間（しゆんかん）、不吉（ふきつ）な会（かい）話（わ）を小耳（こみみ）に挟（はさ）んだ。「今（いま）頃（ころ）

は、あの男（おとこ）も、はりつけにかかつているよ。」ああ、その男（おとこ）、その男（おとこ）のために私は、今（いま）こんなに走（は）っているのだ。その男（おとこ）を死（し）なせてはならない。急（いそ）げ、メロス。遅（おそ）れてはならぬ。愛（あい）と誠（まこと）の力（ちから）を、今（いま）こそ知（し）らせてやるがよい。風（ふう）体（たい）なんかはどうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸（ぜんら）体（たい）であつた。呼吸（こそ）もできず、二度（にど）、三度（さんど）、口（くち）から血（ち）が噴（ふ）き出（で）た。見（み）える。はるか向（むか）うに小さく、シラクスの町（まち）の塔楼（とうろう）が見（み）える。塔楼（とうろう）は、夕（ゆふ）日（ひ）を受けてきらきら光（ひか）っている。

「ああ、メロス様（さま）。うめくような声（こゑ）が、風（ふう）とともに聞（きこ）えた。誰（だれ）だ。」メロスは走（は）りながら尋（たず）ねた。

「フィロストラトスでございます。あなたのお友（とも）達（たち）セリヌンティウス様の弟（でい）子（こ）でございます。」その若い石工（いしこう）も、メロスの後（あと）について走（は）りながら叫（さけ）んだ。「もう、だめでございます。むだでございます。走（は）るのはやめてください。もう、あ（あ）の方（かた）をお助（たす）けになることはできません。」

「いや、まだ日は沈（しず）まぬ。」「ちようど今（いま）、あ（あ）の方（かた）が死（し）刑（けい）になるところです。ああ、あなたは遅（おそ）かった。お恨（うら）み申（まう）します。ほんの少し、もうちよつとでも、早（はや）かったなら！」

「いや、まだ日は沈（しず）まぬ。」メロスは胸（むね）の張（は）り裂（さ）ける思（おも）いで、赤（あか）く大（おほ）きく夕（ゆふ）日（ひ）ばかりを見（み）つめていた。走（は）るより他（ほか）はない。（太宰治（だざいじ）「走（は）れメロス」より）

25

40

45

50

(1)

ア

(2)

②

(3)

讀

(4)

記

I

(5)

①

↓問題は次のページに続きます。

暗記ノート

走れメロス

作品知識

「走れメロス」の①作者名を漢字で書き、②同じ作者の作品として適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 富嶽百景 イ 斜陽 ① ②
ウ 人間失格 エ 羅生門

得点ワード

に当てはまる言葉を後の から選んで書きなさい。

1 孤独の心 (教198⑦)

↓ 人間はもともと だから信じてはならぬと考える

王が、自らの心について表現した言葉。

「顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように」(教198①) 深くなった表情にも表れている。

2 義務遂行の希望 (教207④)

↓ 王のもとへ戻り、 の存在を証明する希望。

セリヌンティウスを助けるため、「我が身を殺して、名誉を守る希望」(教207④)。

3 悪魔のささやき (教207⑨)

↓ セリヌンティウスの信頼を裏切り、

として生き延びようと考えたこと。

信実 悪徳者 私欲の塊

丸暗記!

重要記述

「二人のさまをまじまじと見つめていた」(教211⑧) とあるが、このとき、王の人間全般に対する考え方はどのように変わったか。

① に当てはまる言葉をなぞって書いてみよう!

これまでは、**信実** など空虚な **妄想** で、人を信じることはできないと思っていたが、メロスとセリヌンティウスの姿を見て、信

実が **存在する** ことに気づいた。

② ①の答えを全文自分で書いてみよう!

③ ②の答えをおぼえておこう!